

地球のシステム。人がいるから——

第33回 BMW 技術全国交流会、設立 30 周年記念式典 に参加して

2024 年 11 月 12 日～14 日の 3 日間、秋田県鹿角市において「BMW 技術全国交流会」及び本当の設立は 3 年前ではあるが「設立 30 周年記念式典」が開催され、環境委員の山田が参加してきたので報告します。

記念講演の長崎先生は「自然観・人間観」を細かく話され、「BMW 技術は半分の技術」、人と自然界があつてこそ。どれか一つではなく、その地域の岩石全てでできるもの。技術が人を選ぶと。

パネルディスカッションでは「未来へ繋いでいくために」がテーマ。中でも印象的だったのはグリーンコープの片岡氏のお話で、実際に酪農の現場に行き、牛の世話をする中で、「自分事」と受け止められるようになり「世の中全てが B (バクテリア) と M (ミネラル) と W (ウォーター) でできているんだ！その経験から「食べ物はそのまま食べるから命と繋がる！」と。

いろんな話が出たが、まとめると「これまでもこれからも BMW 技術は変わらない。それは地球が「変わらずある」からで、生産者と消費者と分けるのではなく**自分事**にして一緒に歩もう。地球のシステムに寄り添って人が工夫して、やる。地球は変わらないが『進化する技術』なんだ」ということ。

そこに菌
そこに水
そこに人



BMW 技術協会の HP

翌日の米沢郷の伊藤氏による基調報告では、BMW 技術は「**半分の技術**」、残りの半分は現場の様子をどれだけ観察してそこに合ったものを見出すか」だと。材料も pH も違うのに同じ結果、**互換性**のある技術、その人が持つノウハウと仲良く出来る技術なのだと。また、一人が担う田んぼ面積が増えてきている現状で、継続した未来を作るには「人」が必要で「**農家にこどもをください！**」と叫ばれていた。

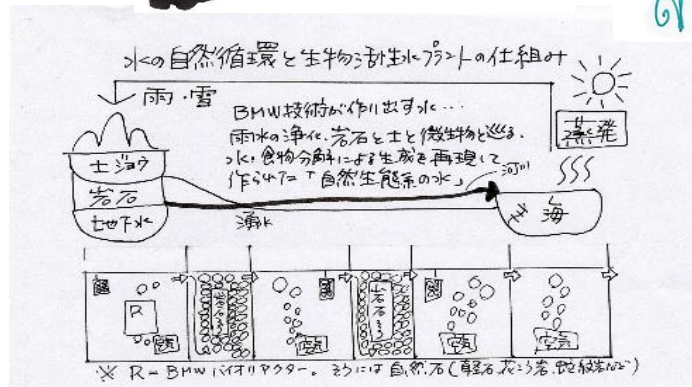
次に、京都大学の奥地教授は「十和田火山」について現地調査レポート。カルデラ湖の説明、4 つのプレートを持つ日本の特性、火山はやんちゃだけど悪い奴じゃない、火山との付き合いが上手な民族、遠くを見ていると昔のことがよくわかるとお話された。翌日の十和田湖巡りに大変貴重な内容だった。

そのあと、ポークランドグループの豊下氏による開催地事例報告では、会場と現場をオンラインで繋ぎ「生現場レポート」され、豚舎内を zoom 画面越しに見せてもらえた。(基本的にリアルでも見学できない場所！)

広い豚舎で、喧嘩は少なく強い豚、弱い豚と自然に別れ、いじめられても逃げられるスペースがある、トイレは決まったところ、寝床は自分で作るなど豚の生態も知れた。ポークランドは最初から BMW 技術を取り入れていて、BMW 技術により臭いも激減し、豚が飲むことで腸内環境が整い、「桃豚」は大変に美味しかった) 健康に育ち肉質がよくなるなど、素晴らしい循環を報告された。

そのほか、多数ある事例報告をメモした中で『資材と捉えていたが、理念技術を聞いて「魔法の水」でも「期待するもの」でもなく、自分で作っていくものなのだ』とあった。

BMW



自然界の循環の仕組みをモデルにした技術。

特定の「菌」を用いるのではなく、その土地の有機物を有効に活用し、「そこ」にいるバクテリア(土壌微生物)を活性化させることを第一に考え、ミネラルバランスの整った「**生き物にとって良い水**」を作り出す技術。地球上の生物(植物・動物など)はいずれバクテリア(B)により分解され、炭素・窒素・ミネラル(M)に分解され、新たな生命に供給されていくという大きな生態系の循環の中に在る。そしてこの循環に水(W)が大きな役割を果たしている。[第33回 BMW 技術全国大会資料より抜粋]

(Yの見解→) つまり、太古の昔から在るもの(*これを自然界という)、わたしたちを含む地球上から生み出された「有機物」と「(菌)バクテリア」と「岩石」と「水」が循環することで新しい命が生み出されていくというそもそのシステムを活用した技術だということ。

Yの狙いは何だったのか?

2023 年の生協フェスタで 500ml の BMW 生物活性水に出会った。「BMW? それさえ活用出来たらわたしは自給の道に進むことができるのか?」と飛びつき、その秋より取り組み始めてみたが、そんな甘くはない結果に。(基本的ずぼらな性格のせいです泣)

- 主な狙いは「家庭での活用法の情報ゲット」。
- ① 野菜栽培への活用法(どうにもなんちゃってから抜け出せない家庭菜園を、できれば片手間でも「自給」できるほどにしたい!)
 - ② 生ごみ対策(臭い・虫)
 - ③ 人の臭い関連 ④ その他

この謎の「水」をおうちの中でどう活用すればよいのか? いいのは分かる、でもイマイチ効果がわからない。。。これが本心。なので、このへんの「ノウハウ」を求めに行ったのだ。

で、何を信じたのか?

30 年の歩みを動画で見て度肝を抜かれた。(冒頭の記事×100 万馬力パワー)

全国から集まった約 200 人の方々から寄せられたのは「生き方」「在り方」「感謝」だった。

「自然浄化法」を基礎に約 30 年もの間、それぞれ自分の「現場」で試行錯誤と情報交換を繰り返し、真剣に土と植物と向き合い、その「日々」が結晶となっているのが「農作物」なのだ!

学習会を重ね、お互いの農作物を比べあひ、劣っているとへこむのではなく、**よーし! そうか! まだまだやれることがあるぞ! 持ち帰ってさあ、研究だ!**と挑戦し続けた人たちの熱い思いだった。地球と共に歩み積み重ねた 30 年だったのだという理解と、生きていく上でのパワーと「自分を信じる心」が大切だ! をシャワーのように浴びたのだった。

わたしが「やること」は、自分の場所で目の前の土や植物の様子を観察し自分で考えて工夫を積み重ねて見出すことだったのだ。地球のシステムを信じて。

全国各地から BMW 技術で育てられた食材が持ち込まれ、BMW 技術がおいしいものを作ることに重要かつ多大な貢献を果たしていることを実感した。